

プレルーティングによるオリエンタル系ゆりの品質向上技術(処理温度、処理期間)

抑制栽培のオリエンタル系ゆりの中でも、「葉焼け」などの生理障害の発生しやすい品種では、プレルーティング技術の利用により、障害の発生を抑えて品質を向上させるとともに、草丈を増加させて出荷率を向上させることが可能になる。



写真1 葉焼け

写真1はオリエンタル系ゆり「アカブルコ」の抑制栽培で発生した葉焼けである。

葉にかすり状の白斑を生じ、ひどい場合は焼けたように褐変落葉する。また蕾では落蕾や奇形が多発し、品質低下が著しい。



図1 プレルーティングの方法

凍結球根を解凍後、球根輸送用容器に重量の80%の含水率に調整したピートモスを用い、球根を一層にくっつけて植える。その後、湿度95%程度に維持した冷蔵庫内で一定期間生育させた後、圃場に定植する。

表1 品種別のプレルーティング処理温度及び処理期間が品質、出荷率に及ぼす影響

品種名	処理温度(°C)	処理期間(週)	葉焼け量	草丈(cm)	出荷率(%)
アカブルコ	15	3~4	少ない	70.1~72.4	93.2~100
	12	3~4	少ない	71.2~71.7	92.3~100
	無処理		多い	62.4	46
スターゲザー	15	3~4	極少ない	56.6~58.0	100
	12	3~4	極少ない	61.7~62.2	100
	10	4	少ない	61.1	96.3
	無処理		多い	52.2	65.2

図2 スターゲザーにおける障害発生割合

表1は、プレルーティングの処理温度、処理期間と葉焼け等の障害や出荷率等を示したもので、処理による効果が明らかに認められた。

